



# 羽咋市復興個別計画

## 〔本町地区〕

令和7年6月  
本町・羽咋市

# 目 次

|   |                |   |
|---|----------------|---|
| 1 | 復興個別計画の概要      | 1 |
|   | （1）復興個別計画とは    | 1 |
|   | （2）復興個別計画の構成   | 1 |
| 2 | 地区の現状と課題       | 2 |
|   | （1）地区の現状       | 2 |
|   | （2）地区の被災状況及び課題 | 4 |
| 3 | 復興に向けた取組事項     | 5 |
|   | （1）地区の防災力向上    | 5 |
|   | （2）ハード面の機能強化等  | 6 |
| 4 | 資料編            | 7 |
|   | （1）復興個別計画策定手順  | 7 |
|   | （2）ワークショップ実施概要 | 8 |

# 1 復興個別計画の概要

## （１）復興個別計画とは

令和６年１月１日午後４時１０分に発生した令和６年能登半島地震では、本市においても震度５強（※推定震度６弱）を観測し、市内各地で液状化や家屋の倒壊など甚大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

これを受け本市では、被災者の住まいとくらしの再建、被災地域の復旧・復興、地域経済の再建など、住民が希望と夢をもって安心して住み続けることができるよう、令和６年８月に“羽咋市復興計画”を策定し、各種取組を進めています。

しかしながら、大規模な液状化が発生し、インフラ（道路、上下水道等）に甚大な被害を受けた地区等においては、復旧までに長い期間を要し、「いつになったら元の生活に戻るのか」「このまま住み続けることができるのか」など、地区の将来の姿が見えず、依然として多くの住民の方が不安を抱えながら生活しています。

このため、地区の実情に応じた、将来にわたってお住まいの地区に住み続けるための将来展望や、この実現に向けた地区の防災力向上等の優先すべき取組、インフラの復旧スケジュール等を明確にした“復興個別計画”を策定し、住民・地区・行政で共有することで、地区の復興に向けた取組を進めるものです。

## （２）復興個別計画の構成

復興個別計画は、大きく「復興」と「復旧」に分け、取組事項等を整理します。

「復興」に関する内容は、令和６年能登半島地震を受けた地区の問題点・課題、これを踏まえた地区の将来像、この実現に向けた取組等について、地区住民が主体のワークショップで検討・協議した内容に基づき、整理します。なお、「復興」の取組については、住民・地区・行政が協働で取り組む必要があるため、下図に示す自助・共助・公助に分け整理します。

「復旧」に関する内容※は、行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧の取組内容・位置及び実施スケジュールを整理します。

※本町地区の「復旧」の内容については、別途、液状化対策において整理します。

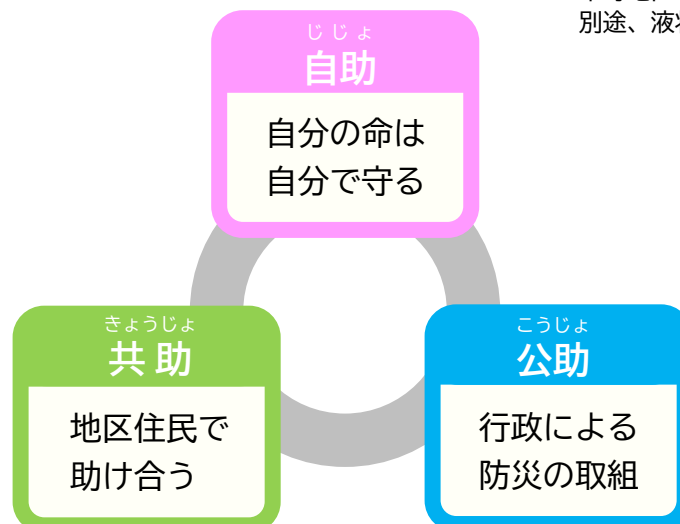


図 自助・共助・公助のイメージ図

## 2 地区の現状と課題

### （１）地区の現状

#### 【概況】

本町地区は、中心市街地に位置し、地区には低層を中心とした住宅地が形成されています。

羽咋市の中心市街地と金沢市方面を連絡する国道 249 号が幹線道路となっています。また、地区北部を子浦川が東西に流れています。

地区内には、本町会館を有しています。また、地区内に避難場所及び避難所はありませんが、近隣の避難場所及び避難所として「中央公園」「羽咋公民館」があります。



本町会館



#### 【人口及び世帯数】

本町地区の総人口は 286 人、世帯数は 138 世帯となっています。

地区の老年人口割合は 53.5%となっており、市全域の老年人口割合（41.0%）を上回っています。また、特に 40～64 歳の生産年齢人口割合（24.1%）が、市全域の割合（31.2%）よりも低くなっています。

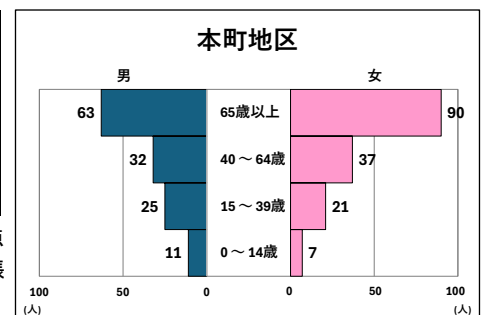
今後、さらなる高齢化の進行により、地区のコミュニティ活動の維持等が困難になることが推測されます。

表 本町地区の人口（年齢 4 区分別割合）

|      | 年少人口   | 生産年齢人口  |         | 老年人口   |
|------|--------|---------|---------|--------|
|      | 0～14 歳 | 15～39 歳 | 40～64 歳 | 65 歳以上 |
| 本町地区 | 6.3%   | 16.1%   | 24.1%   | 53.5%  |
| 市全域  | 8.8%   | 19.0%   | 31.2%   | 41.0%  |

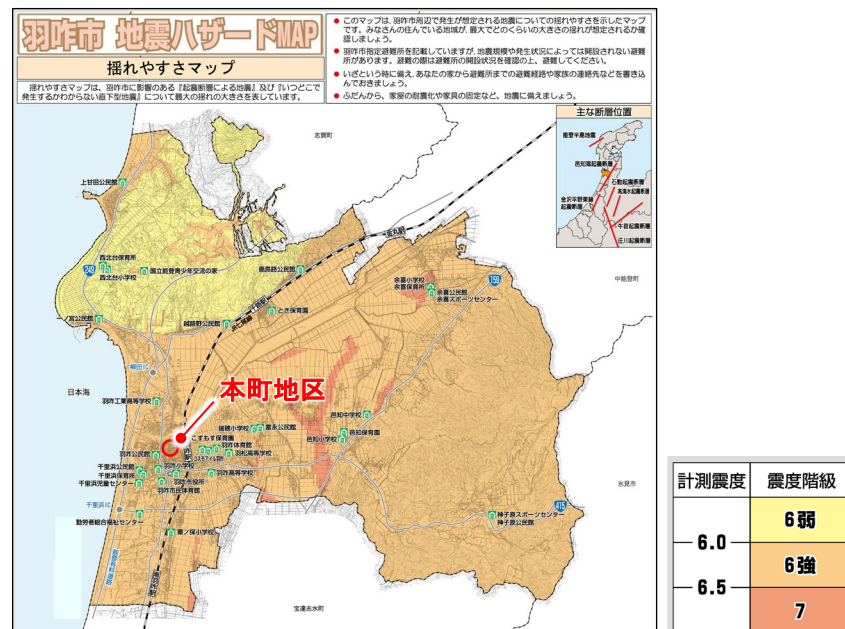
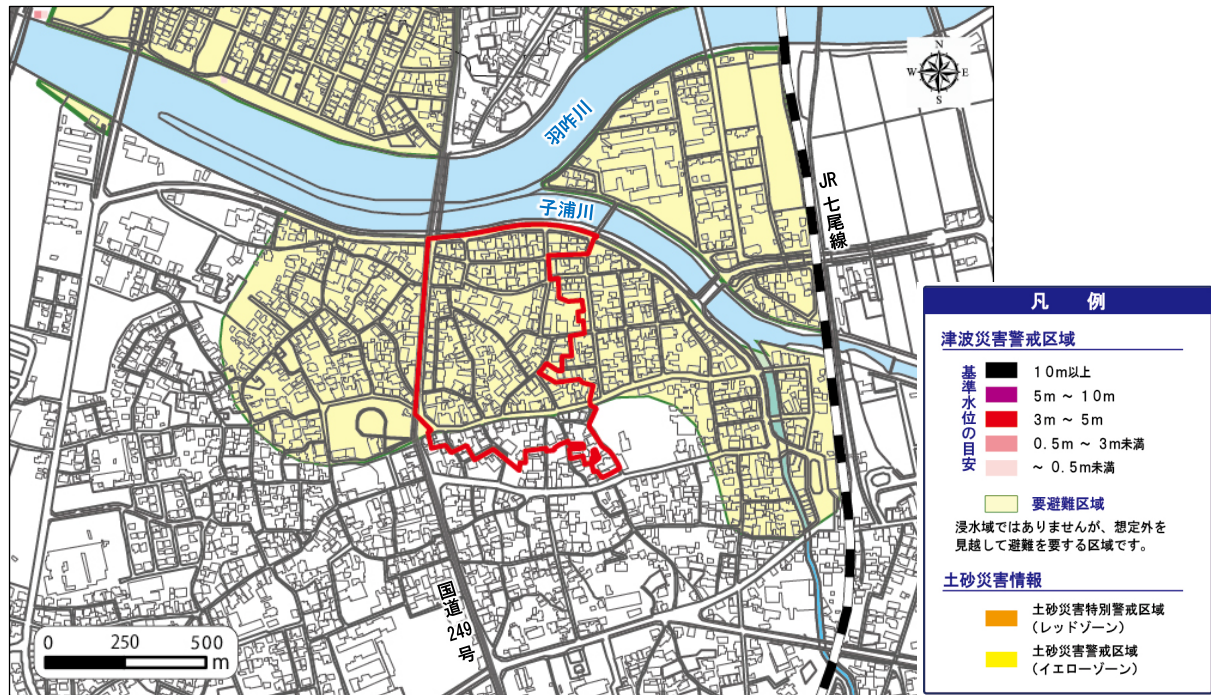
※令和 6 年 4 月 1 日時点

資料：住民基本台帳



【各種ハザードの指定状況】

本町地区は、大部分が津波災害警戒区域の要避難区域に指定されており、大規模な地震が発生した場合、当該区域外への迅速な避難が必要です。また、地震による地区の最大震度は6強が想定されています。



【耐震化率】

昭和 56 年以前の建物を未耐震として算出した場合（改修済みを除く）の本町地区内における建物の耐震化率は、35.3%となっています。これは、全国平均の耐震化率（87.0%）を大きく下回っています。上記規模の地震が発生した場合、令和 6 年能登半島地震（震度 5 強）よりも甚大な被害となる可能性があります。

（２）地区の被災状況及び課題

令和7年1月に実施した「第1回 復興個別計画の作成に向けたワークショップ」でのご意見を踏まえた地区の被災状況及び問題点・課題は以下のとおりです。



### 3 復興に向けた取組事項

#### ＜地区の将来像＞

#### みんなで長生き！ 便利で安心して住み続けられるまち 本町

みんなが手を取り合って地域コミュニティを維持しながら、便利で安心して住み続けられるまちを目指します。

前頁の被災状況及び問題点・課題を踏まえ、“取組が必要な事項”“取組内容”“具体的な活動等”を自助・共助・公助ごとに設定します。

“取組内容”については、第2回ワークショップの検討結果に基づき、“◎：最重要取組事項”、“○：重要取組事項”として整理します。

#### （１）地区の防災力向上

##### 【自助】

| 取組が必要な事項   | 取組内容                         | 具体的な活動等                                    |
|------------|------------------------------|--------------------------------------------|
| 迅速・的確な避難行動 | ◎発災時の初動がスムーズに行えるように、家庭内の事前確認 | ◇家庭内での避難所・避難経路、備蓄品などの話し合い<br>◇ハザードマップの事前確認 |
| 住宅の安全対策    | ◎地震の揺れに備えた、屋内での安全対策の強化       | ◇家具等の転倒・落下等を防止するための事前準備（固定、扉の施錠など）         |
| 災害時の生活維持   | ○在宅避難等にも対応できる最低限の事前準備        | ◇備蓄品（飲水、食料、防寒具、石油ストーブなど）の事前準備              |

##### 【共助】

| 取組が必要な事項      | 取組内容                          | 具体的な活動等                                                                                     |
|---------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 迅速・的確な避難行動    | ◎発災時の初動がスムーズに行えるように、避難訓練の実施   | ◇避難訓練での避難所・安否確認方法等の事前確認<br>◇工夫を凝らした避難訓練の実施（遊びを取り入れるなど）<br>◇課題の把握と次に活かすための避難訓練の定期（年1回など）・継続化 |
| 災害時要支援者等の安否確認 | ◎災害時要配慮者が孤立しないように、近隣住民間での連携強化 | ◇近隣の高齢者世帯等のリスト（住所・連絡先など）・マップの作成<br>◇近隣住民間の交流の場の確保（お互いの健康状態の把握など）                            |

【共助（つづき）】

| 取組が必要な事項  | 取組内容                | 具体的な活動等                                                      |
|-----------|---------------------|--------------------------------------------------------------|
| 避難所の環境改善  | ○本町会館の環境整備          | ◇避難所としての活用検討（設備の充実）<br>◇本町会館の開放（災害時における迅速な鍵の解錠）<br>◇井戸水の整備検討 |
| 避難所の把握・共有 | ○避難所の混雑を解消するための事前確認 | ◇避難先の事前確認（近隣の避難所の環境・容量等）・共有化                                 |

【公助】

| 取組が必要な事項   | 取組内容                | 具体的な活動等                                         |
|------------|---------------------|-------------------------------------------------|
| 迅速・的確な避難行動 | ◎状況に応じた避難先の多様化      | ◇避難先を柔軟に変更できる避難方針の検討（近距離の安全な場所に避難など）            |
| 災害時の生活維持   | ○災害時の断水に備えた井戸の把握・周知 | ◇井戸の事前確認・登録の検討<br>◇井戸のマップ作成、井戸の場所が分かる目印（札など）の設置 |

（２）ハード面の機能強化等

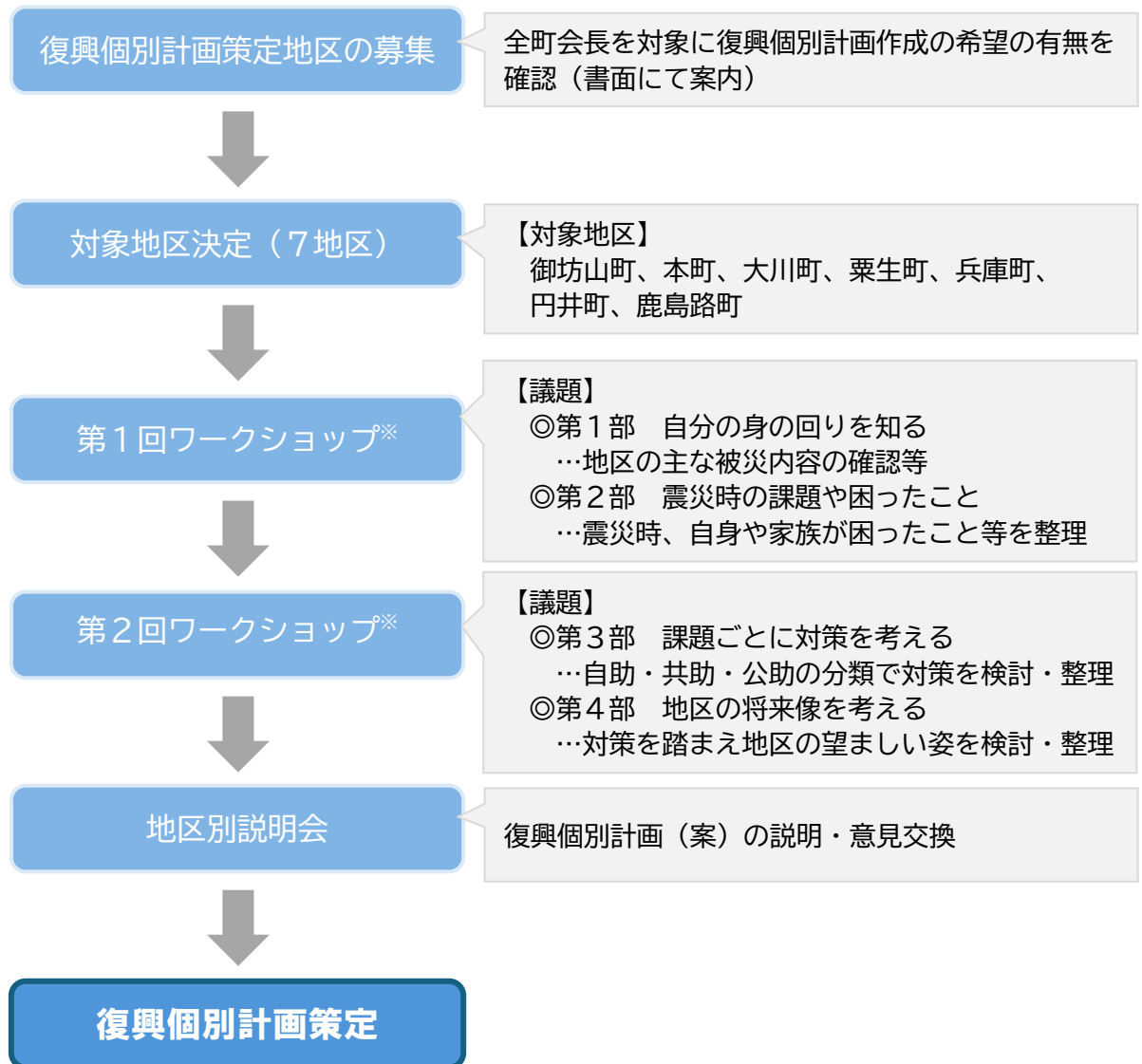
【公助】

| 取組が必要な事項    | 取組内容                  | 具体的な活動等                                              |
|-------------|-----------------------|------------------------------------------------------|
| 住環境の維持      | ◎中ノ島公園の環境整備           | ◇階段等の改修                                              |
| 〃           | ◎早急な地区の復旧整備           | ◇道路等のインフラ施設の強靱化<br>◇被災地へ向かう多様な交通手段の確保                |
| 迅速・的確な情報の発信 | ◎不安を解消するために、復旧方法の見える化 | ◇復旧に向けた道路等の工事計画の作成<br>◇羽咋市による説明会の開催、復旧に関する分かりやすい情報開示 |

## 4 資料編

### （１）復興個別計画策定手順

復興個別計画の策定は、以下の手順で実施しました。



#### ※ワークショップの概要・進め方

- 1グループあたり5名程度を基本に2～3グループで実施
- 各グループには市職員も配置
- テーマに応じて個人の意見等を付箋に書き出し、グループ内で意見交換をしながら共有・とりまとめ
- 各回、グループでのとりまとめ結果を代表者より発表し、意見を共有

## （２）ワークショップ実施概要

### ■第１回

【開催日】令和７年１月２３日（木） １８：００～１９：３０

【場 所】本町会館

【参加者】町会長及び地区住民 計１３人

【議 題】第１部 （現状把握）自分の身の回りを知る  
第２部 （現状把握）震災時の課題や困ったこと



ワークショップの様子

### 【主な意見（震災時の課題や困ったこと）】

| 項 目    | 課題・困ったこと                                                                                                                   | 項 目          | 課題・困ったこと                                                                                                                                                               |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 災害への備え | <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練をしていないので、どうしていいかわからない</li> <li>津波警報への対処（避難先等）</li> <li>棚から食器等が落ちてきた</li> </ul>  | 被災後の生活       | <ul style="list-style-type: none"> <li>除雪が心配</li> </ul>                                                                                                                |
| 避難     | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の避難活動、支援</li> <li>避難する手段がない</li> <li>中ノ島公園、緑地公園への階段が急</li> </ul>                 | ハード整備<br>・復旧 | <ul style="list-style-type: none"> <li>上下水道が使えない</li> <li>家屋の修繕（業者が確保できない）</li> <li>ブロック塀等の倒壊が危険</li> <li>道路、電柱、側溝の排水の復旧</li> <li>液状化</li> <li>緑地公園が崩れないか心配</li> </ul> |
| 避難所    | <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所での電気、水、トイレ、暖房等の確保</li> <li>避難所でのペット受け入れ</li> <li>避難先が人でいっぱい</li> </ul>           | 地域コミュニティ     | <ul style="list-style-type: none"> <li>更地が増えた</li> </ul>                                                                                                               |
| 情報     | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災無線が聞こえづらい</li> <li>安否確認</li> <li>活用できる井戸水の周知</li> <li>補助の期間、手続きがわかりにくい</li> </ul> |              |                                                                                                                                                                        |

## ■第2回

【開催日】令和7年2月27日（木） 18:00～19:45

【場所】本町会館

【参加者】町会長及び地区住民 計12人

【議題】第3部 （対応協議）課題ごとに対策を考える  
第4部 （将来展望）地区の将来像を考える



ワークショップの様子

### 【地区の将来像案】

フレーズ：みんなで長生き！本町／手を取りあい安心して住み続けられるまち  
キーワード：便利で住みたいまち／コミュニティ

### 【主な対策】

|    |       |                                               |
|----|-------|-----------------------------------------------|
| 自助 | 最重要対策 | 高齢者の状況把握／家具の転倒、落下等の対策／<br>災害への備えについて、家族での話し合い |
|    | 重要対策  | 防災リュックの準備／高齢者等への声かけ                           |
| 共助 | 最重要対策 | 避難訓練の実施／高齢者の状況把握（マップ化）                        |
|    | 重要対策  | 避難先の共有／高齢者の避難支援担当者の決定／<br>会館の避難所としての開放        |
| 公助 | 最重要対策 | 中ノ島公園へのスロープ整備／インフラの強靱化／<br>避難所への多様な交通手段整備     |
|    | 重要対策  | 利用可能な井戸のマップ化／地域の実情に合わせた避難所の多様化                |